

アルテア根ノ乾燥 (木村撮影)

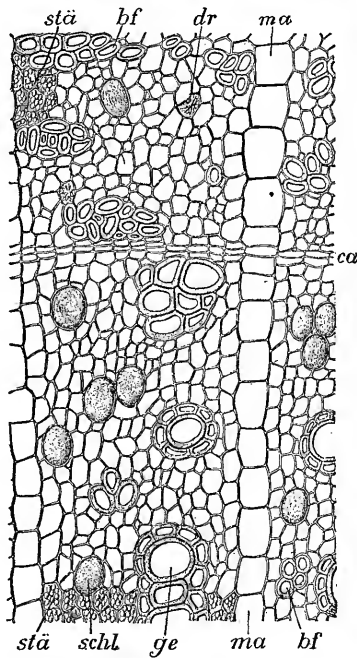
からたちばなノ胎生果實

ニ窺ヘバ圖ノ如ク一見シテ明カナ事實デアル

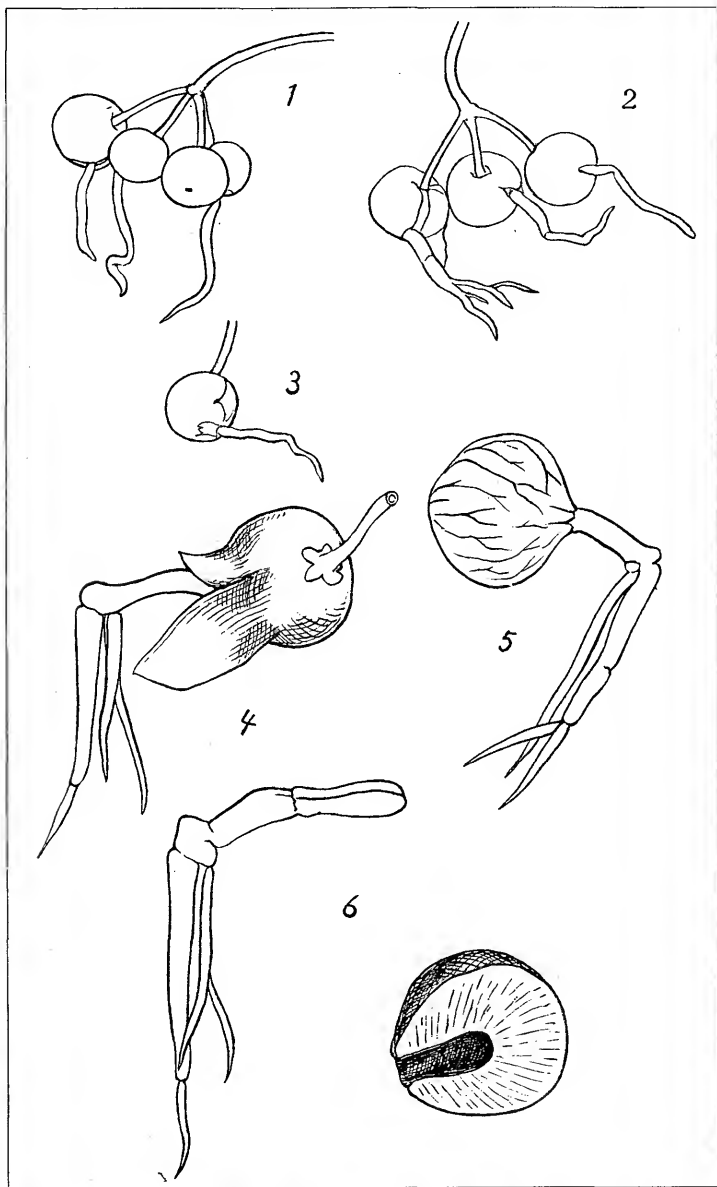
○からたちばなノ胎生果實

高知縣 吉 永 虎 馬

本誌本卷ノ第三號ニ久内清孝君ノ書カレタからたちばなノ果實胎生ノ記事ヲ拜讀シタガ私モ亦曾テ此レニ就テノ事實ヲ觀察シタ事ガアルノデ左ニ之レヲ述ベテ見ル
胎生果實 (Vivipary) ノ著例トシテ能ク教科書ナドニ引用セ



アルテア根ノ横断面 ma. 髓線 bf. 脈管
ge. 脈管束 dr. 修酸石灰ノ簇晶 ca. 新生組織
schl. 粘液細胞 stā. 澱粉粒 (GILG)

からたちばな (*Ardisia punctata* LINDL.) ノ胎生果實

(Del. by T. YOSHINAGA, July 13, 1931.)

ラル、モノハひるぎ科即チ *Rhizophoraceae* ノモノデ内地デハ之ヲ實見スルノ機會ガ少ク多クハ唯僅ニ圖畫ニテ之ヲ知ルニ過ギナイ有様ナノデアル、なつみかんノ如キモ其實内ニ於テ種子ノ萌發シテ幼根ヲ數寸ノ長ニ伸スコトヲ見レドモ、直ニ之ヲ胎生果實ト同一視スルノハ稍穩當デナク聊カ類似シタル現象ト見做スベキデアラウ、然ルニ茲ニ普通ノ邦產植物デ此ノ實例トシテ適當ト思ハル、モノガアル、即チからたちばな (*Ardisia punctata* Lindl.) ガソレデアル、此植物ハ陰地ニ生ズル小灌木デアツテ其紅熟シタル果實ハ越年シテ頗ル美シイモノデアル、ソレガ初夏ノ頃ニ至レバ繖形ヲシタル果柄ニヨリテ母樹ニ着キタル儘發芽シ其胚軸ハ伸ビ幼根ハ破レタル果皮ノ外ニ現ハレ終ニ寸許ニ達シテ下垂シ而シテ自然ニ果柄ヲ離レテ落チ根ハ地中ニ穿入シテ漸次生長スルニ至ルノデアル、從テ母樹ノ下ニハ落チタル多數ノ果實ヨリ發生シタ幼植物ガ叢リ生ジテ居ルヲ見ルノデアル、私ハ此ノ事實ヲ昨年七月十九日ニ初メテ知ツタ

挿圖ノ解

1. 果柄ニ着キタル儘幼根ヲ出シタルモノ
2. 一ノ果實
3. 右ヲ廓大シタルモノニシテ、根ノ分岐シタルモノ
4. 果皮ヲ去リタルモノ
5. 胚ト胚乳トヲ分離シタルモノ

【牧野云フ】 らかんまきノ實カラモ樹上ニ在リナガラ時々幼根ヲ出シテ其レガ能ク種子下ノ赤色多肉ナル果托ニ突キ込ンデキルノヲ見受ケルガサウシタ現象ノ現ハル、樹ハ毎年其時期ガ來レバヤハリ同ジ事ヲ繰リ返シテキル

○我邦最古且ツ創刻ノ園藝書『花壇綱目』